



こまくさ

平成30年
10月19日(金)
No.23

《教育目標》 ~夢に向かって やさしく! かしく! たくましく!~

5年生が稲刈りを体験! ~収穫の苦勞と喜びを実感しました~

12日(金)に予定していた5年生の稲刈りですが、雨のために延期となり、16日(火)に実施しました。JAの田口さんの指導の下、二人一組で稲刈り鎌を使って稲を刈り取り、コンバインで脱穀しました。最初は、コツがつかめず苦勞していましたが、次第にスムーズに刈れるようになりました。収穫した米は、11月14日(水)の給食で全校の皆さんでいただくことになっています。新米で食べるカレーが楽しみです。



- ◇田うえといねかりだけで、こんなに大変なんだから、農家さんはすごく苦勞して育てているんだなと思った。二人で安全にいねかりができてよかった。とてもつかれた。(Y.さん)
- ◇今日のいねかりは楽しかったです。いねを最初にかるとき、カマがこわかったし、どうやってやるのか分かりませんでした。あとから速く切れるようになりました。カレーの日がはやくきてほしいです。(H.さん)
- ◇今日は、稲刈りを初めて体験しました。特に気をつけたことは、かまの使い方です。理由は、前の日に先生が「かまは、あぶないので気をつけて使いましょう」と言ったので、少しこわかったけど、けがなく出来てよかったです。(T.さん)

アトリエの方々の日誌から

こまくさ7号でも紹介しましたが、毎週木曜日、先生方が朝の打ち合わせをしている時間に「お話の会アトリエ」の方々が読み聞かせをしてくれています。アトリエの方々の日誌に、読み聞かせに対する思いや子どもたちの様子が載っていましたので紹介したいと思います。



- ◇「朝ご飯食べてきた?」と問いながらはじめ、少しわいわいしていたが、だんだん集中してくれた。笑いとともにあったかい気持ちになってくれたと感じた。少し長いかなと思いましたが、絵にも内容にもぐっと入ってくれ、拍手が嬉しかった。
- ◇前回集中できない子どももいたので、目先を変えたらどうかと思い紙芝居にした。子どもたちはとても興味を示し、お話も「早く早く」と乗り気だった。紙芝居は、子ども同士でのコミュニケーションが生まれる気がした。子どもたちから「まだ時間あるよ」「もっと読んで」と声が上がり嬉しかった。
- ◇教科書に紹介されている本の中から選び、子どもたちにも伝えたら「知ってる」「学校にもあるよ」「読んだことある」と声が上がった。「読んだことあっても聞いてね」と読み始めたら、ちゃんと聞いてくれた。絵の迫力にひきつけられて楽しい雰囲気最後まで読めた。少しだけ時間が残ったので、別の本を紹介した。「他には、どんな本を持ってきたの」と本に対する興味が深くなってきたように思う。
- ◇この学年は、昨年同じシリーズでラオスの昔話を読んでいたので、今回はタイの国の昔話を選んだ。大らかで明るい話に、子どもたちは、何度も大笑いして話の世界を楽しんでくれた。読み手も子どもたちの反応が嬉しかった。



作文紹介

前号で紹介できなかった5年生のS.さんの「ぼくとベルさん」という本を読んだの読書感想文を紹介します。この本は、今年度の「第64回 青少年読書感想文全国コンクール」小学校高学年の部の課題図書になっている本です。私も読みましたが、とてもおもしろい本で一気に読み終わりました。図書館にありますので、高学年の皆さんには是非読んでもらいたいと思いますし、保護者の方々も時間がありましたら読んでみてください。

エディが変わることができたきっかけ 5年梅組 S.さん

みなさんは、グラハム・ベルという人物をしっていますか。グラハム・ベルは世界で初の電話を作ったり、耳が不自由な人に力を注いだ人物としても知られている人です。

この本を読もうと思ったきっかけは、「どうして読み書きができないんだろう。」としょうかい文を見て思ったからです。どうしてもうまく読み書きができず、家族からも相手にされない主人公のエディという少年が、実在した人物で発明家のグラハム・ベルや耳と目が不自由なヘレン・ケラーと出会って、読み書きが苦手だけど応用数学が得意なことに気づき、それを使って活やくしたことで家族からみとめられていくお話です。

ベルさんがこの本でエディに言ったセリフで、わたしの心にひびいたものがあります。それは、「われわれは失敗から実に多くのことを学ぶ。たとえば、これではうまくいかないということも学ぶ。すると別の新しいことに挑戦してみようという気になる。それどころか、そもそも失敗することがなかったら、一生懸命がんばることもないだろう。」という言葉です。これはエディが単語をみてしまうと頭が回らなくなり、文字が書けなくなるとベルさんに相談した場面の言葉です。わたしも音楽が苦手なリコーダーのえんそうを何度も失敗して、どうしたらうまくできるのかなと考えたり、一生懸命何度もみんなと合わせて練習したりしたことがあったので、共感できると思いました。

また、本当によかったと感じたことがあります。それは、エディがベルさんと出会ったことです。家族や同級生からも「勉強ができない子」と思われていたエディでしたが、ベルさんと出会って前向きになれるはげましの言葉をかけてもらったから、自分が他の人よりも数学の才能があることに気が付くことができ、ヘレン・ケラーと出会って読み書きのコツを教えてもらい練習することで、エディは自分自身を変えることができたのだと思います。そして、自分で勉強した応用数学を使って木の下じきになっていたエディのお父さんを救うことができました。このことで、家族のエディに対する気持ちが変わり、エディにやさしくなってくれたと思いました。

わたしは、この本を読んで、エディのことについてもっとくわしく知りたくなり、母に聞いてみると、エディの読み書きがうまくできないのはディスクレシアという学習しよう害と言われるものだと教えてもらいました。読むことができないと書くこともむずかしいので、世の中には、なやんでいる子どもたちがたくさんいると聞きました。もしわたしのまわりに、エディのようなしょう害をもつ人がいたら、きずつけたりしないようにしたいと思います。そして、わたしと同じような思いをもつ人がたくさんふえてほしいと思いました。

課外活動の活躍

◆第43回 大曲仙北少年剣道錬成大会

10月13日(土)第43回大曲仙北少年剣道錬成大会が大仙市のふれあい体育館で行われ、本校の児童が次のとおりの成績を収めました。

個人 三・四年生の部 優勝 O.さん
三・四年生の部 第3位 A.さん

